



# 図書館だより12月号



日高高校・附属中学校図書館

もう12月、まだ12月？2025年もあと1ヶ月、新年に立てた目標は達成しましたか？2学期末テストも終わって、しばらくはゆっくりした気分で過ごせそうですね。油断していると、2年生は修学旅行に行きますし、年末年始はイベントもたくさんあって、やらなければならぬことが山積みになってきます。要領よく片付けてまとまった時間をつくり、年末年始は本を1冊手に取ってください。どんな本でもかまいません。小説でなければ、最初から通して読まなくてもいいのです。興味を引いたところだけを読んでもいいのです。

そんな読書には新書をオススメします。特に『岩波ジュニア新書』と『ちくまプリマー新書』は、大人が読んでも手応えを感じる内容で、しかも読みやすい、中高生向けのシリーズです。本校図書館にも様々なジャンルのものがありますので、ぜひ手に取ってみてください。

## オススメの新書



「空気」を読んでも従わない  
鶴上尚史著 岩波ジュニア新書  
生き生きから楽になる

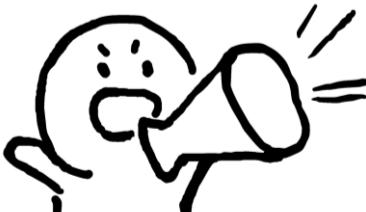
『「空気」を読んでも従わない』  
鶴上尚史著 岩波ジュニア新書

「個性」が大事というけれど、集団の中であまり目立つと浮いてしまう、他人の視線を気にしながら、本当の自分は抑えつけていかないと……。この社会はどうしてこんなに息苦しいのだろう。もっと自分らしく、伸び伸びと生きていきたい！ そんな悩みをかかえるアナタにとっておきのアドバイス。「空気」を読んでも従わない生き方のすすめ。(出版社情報より)

『人類が生まれるための12の偶然』  
眞淳平著 岩波ジュニア新書

もし地球と太陽の距離がもっと近かったら？ もし月がなかったら？ もし地球に豊富な水がなかったら？ もし恐竜が絶滅していなかったら？ 宇宙の誕生から人類の誕生に至る過程でおきた12の「偶然」の出来事に焦点をあて、人類が今ここにいることの不思議さを解き明かす。地球、生命の不思議について考える科学読本。(出版社情報より)

『人類が生まれるための  
12の偶然』



ATTENTION!!

延滞している本を早く返してください！

督促状を何回ももらっている人は  
本を弁償してもらう可能性があります。

きゅんきゅんしたいなら



『降りやまない雪は、君の心に似てる』  
永良サチ著 スターツ出版

弟を事故で喪って以来、家族の中で安らげなくなっていた高校生の小枝は、北海道の祖母の家へいく。そこで出逢ったのは、氷のように体温が冷たい少年・俚斗だった。彼は、過去の出来事が原因で『氷霰症候群』(アイスシンドローム)という奇病を患っていた。小枝は、不思議と氷のような彼から温もりをもらい、凍った心は徐々に溶かされていく。しかし、彼の余命があとわずかなことを小枝は知ってしまい、彼女が彼のためにしたある行動とは――。

触れ合うことができないふたりの、もどかしくも切ない純愛物語。



著者の中村安秀氏は大阪大学  
大学院人間科学科教授、  
日本WHO協会理事長  
です。令和7年度御坊市  
文化賞を受賞したことで、  
著書を本校に寄贈してくださいました。

本をいたしました

『海をわたった母子手帳』 中村安秀著 旬報社

戦後もなく母子手帳は日本で生まれ、それが海をわたって世界中に広まっていることを知っていますか？

インドネシアでの農村診療で日本の母子手帳の素晴らしさを再発見した中村先生は、たくさんの人と協力して母子手帳を世界に広める活動をはじめました。その後、母子手帳は世界50か国以上に広まり、国際会議も開かれるまでになりました。

貧しい国の母と子のいのちを守りたい——小さな手帳が生んだ、大きな奇跡の物語です。



### 司書の編集後記

先月、学校図書館に関わる職員が参加する研修会があり、行きました。そこで和歌山県内の高校の図書館だよりをいくつかもらつたのですが、それぞれに個性があって、学校名を見なくてもつくっている人がすぐ分かるものもありました。日高の図書館だよりは字が多め、多め、というよりかなり多いです。これは私の個性、と割り切つてもいいかとも思ったのですが、やはり昨今のビジュアル重視の風潮に逆らっているのはどうなのか、とも思い始めて…来月からはちょっと印象が違う図書館だよりをつくってみよう勉強中です。人間いくつになつても勉強が必要なんや、勉強してスキルアップして新たな技を身に付けるっておもしろいなあ、としみじみと実感しています。来月の1月号がおもしろいものになつたら、声をかけてください。